

最終評価シート

最終評価（表紙）

高山市 歴史的風致維持向上計画（平成30年3月26日認定） 最終評価（平成30年度～令和6年度）

■ 統括シート（様式1）	2
■ 方針別シート（様式2）	
I 歴史的建造物等の保全・活用	3
II 歴史的景観等の保全・活用	4
III 歴史と伝統を反映した人々の活動の継承	5
IV 観光客の増加や広域的な観光	6
■ 波及効果別シート（様式3）	
i 観光客数の増加	7
ii まちなかの回遊性の向上	8
iii 歴史的建造物等と連携した伝統行事の復活	9
■ 代表的な事業の質シート（様式4）	
A 歴史的建造物活用整備事業	10
B 無電柱化等事業	11
■ 歴史的風致別シート（様式5）	
1 城下町の地割にみる歴史的風致	12
2 高山祭の屋台行事にみる歴史的風致	13
3 東山寺院群にみる歴史的風致	14
4 飛騨匠の技と心にみる歴史的風致	15
5 歴史街道と農山村集落にみる歴史的風致	16
■ 庁内体制シート（様式6）	17
■ 住民評価・協議会意見シート（様式7）	18
■ 全体の課題・対応シート（様式8）	19

市町村名	高山市	評価対象年度	H30～R6年
① 歴史的風致			
	歴史的風致	対応する方針	
1	城下町の地割にみる歴史的風致	Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ	
2	高山祭の屋台行事にみる歴史的風致	Ⅲ	
3	東山寺院群にみる歴史的風致	Ⅳ	
4	飛騨匠の技と心にみる歴史的風致	Ⅲ，Ⅳ	
5	歴史街道と農山村集落にみる歴史的風致	Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ	
② 歴史的風致の維持向上に関する方針			
	方針		
Ⅰ	歴史的建造物等の保存・活用		
Ⅱ	歴史的景観等の保全・活用		
Ⅲ	歴史と伝統を反映した人々の活動の継承		
Ⅳ	観光客の増加や広域的な観光		
③ 歴史まちづくりの波及効果			
	効果		
i	観光客数の増加		
ii	まちなかの回遊性の向上		
iii	歴史的建造物等と連携した伝統行事の復活		
④ 代表的な事業			
	取り組み	事業の種別	
A	歴史的建造物活用整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
B	無電柱化等事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	

市町村名	高山市	評価対象年度	H30～R6年
方針	I 歴史的建造物等の保全・活用	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

市の歴史的風致を構成している建造物は、所有者等による努力や、修理への助成等により保存を図ってきたが、少子高齢化や居住者の減少により維持管理が困難となる町家等が今後さらに増加することが予想されるほか、老朽化対策等への所有者負担も増している。伝統的建造物群保存地区の拡大や文化財への指定・登録を推進し、歴史的建造物等の修理・修景や耐震化に対して継続して支援してきた経緯を踏まえ、適切な保存を促進するとともに、所有者による維持管理が困難な建造物については、官民連携も含む様々な手法により、一層の保存・活用を図る。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	歴史的建造物活用整備事業	2件の建造物を取得・整備	あり	H30～R3
2	歴史的町並保存事業	73件の建造物を修理・修景	あり	H30～R6
3	景観重要建造物の指定	15件→17件	あり	H30～R6
4	景観重要建造物等修景事業	50件の建造物を修景	あり	H30～R6
5	伝統構法木造建築物耐震化事業	耐震診断補助13件、耐震改修補助12件	あり	H30～R6

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

下二之町大新町伝統的建造物群保存地区内などに存し、長らく空き家となっていた2軒の町家について、取得、改修し、地域の活動拠点等として新たな活用を開始した（若者等活動事務所「村半」、飛騨高山にぎわい交流館「大政」）。

重要伝統的建造物群保存地区内の建造物の計画的な修理・修景、防災対策を実施し、建造物の保存や町並みの景観保全を図った。

令和2年度に、大正末期の建築とされる洋風建築「旧須田齒科医院」を景観重要建造物に指定し、同建築物は令和3年度に国の有形文化財に登録された。また、令和6年度には、国の有形文化財に登録された「寿美吉旅館」を景観重要建造物に指定し、景観重要建造物は17件となった。

歴史的町並保存事業、景観重要建造物等修景事業、伝統構法木造建築物耐震化事業により建物改修等に対する助成を行うことで、所有者の負担を軽減し、伝統的な町家や古民家の修景や耐震化を図った。

④ 自己評価

歴史的建造物を活用した「村半」や「大政」の整備や、景観重要建造物の指定、助成制度を活用した建築物の修理・修景等により、良好な町並み景観が保全されるとともに、地域の歴史的風致の核となる建造物の保全と継承が図られ、まちの賑わいが創出された。

⑤ 今後の対応

歴史的町並保存事業や、耐震化を含む建築物の改修への助成、景観重要建造物の指定により、町並み景観や歴史的建造物の適切な保存を図るとともに、景観保存に対する地域住民の意識の向上に継続して取り組む。

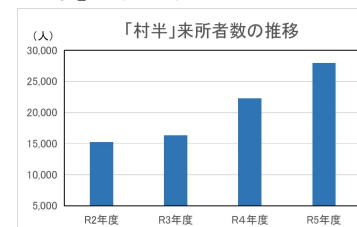
また、伝統的建造物群保存地区の拡大について取り組みを進める。



「大政」の利用状況



「村半」の利用状況



市町村名	高山市	評価対象年度	H30～R6年
方針	Ⅱ 歴史的景観等の保全・活用	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

旧城下町では景観町並保存会等の地域活動への支援、建築物修景等への助成、周遊ルート整備、無電柱化事業等により町並みの保存と魅力向上を図ってきたが、無電柱化が未整備の地域での整備推進や、町並みと不調和な建築物等の早期改修が求められている。また、良好な景観を持つ農山村集落では、居住者の減少等による景観の悪化が課題となっている。

歴史的な町並みやアクセス道路の無電柱化により歴史的景観の再生を図るとともに、景観計画との連携により、魅力ある町並み景観の創出や農山村景観の保全を図る。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	無電柱化等整備事業	延長660mを無電柱化、美装化	あり	H30～R6
2	町並み景観保全事業	生け垣補助21件、板塀補助91件、看板補助78件	あり	H30～R6
3	景観計画との連携	路外駐車場の景観形成基準の新設、周知方法の見直し	なし	H30～R6
4				
5				

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

JR高山駅東口から三町伝統的建造物群保存地区へつながる市道上一之町花里線において、伝統的な町並み景観の再生等を図るため、景観を阻害している電線等を地中化するとともに、景観に配慮した道路整備を行った。

また、民間事業者が行う景観に配慮した看板の設置や、景観計画に適合しない看板の撤去、生け垣や板塀等の設置に対し助成を行い、高山にふさわしい町並み景観の保全を図った。

中心市街地において駐車場の新設が増加したことにより連担性のある家並みなどの良好な町並み景観が乱れるおそれがあるため、平成30年に、駐車場に関する景観形成基準を景観計画に追加した。景観計画については、制定から18年経過し、一定の理解を得られているが、より分かりやすくするため、周知方法を見直し、新たなチラシを作製するとともに、ホームページを再構成し、関連情報へのアクセスを容易にした。

④ 自己評価

上一之町花里線の無電柱化により、JR高山駅から古い町並みへの安全で景観上も良好な動線を確保した。

助成制度については、毎年度、関連する情報をまとめて広報紙に掲載し、継続的な周知に努めてきたことにより、市民や事業者との連携により良好な景観形成を図ることができた。

⑤ 今後の対応

引き続き民間事業者が行う町並み景観保全の取り組みへの支援を行う。

景観計画については、景観形成基準の範囲内でも町並みに調和していないとの意見や、策定から年月を経たことにより基準と現実に乖離が生じていることなど、景観を巡る課題が複雑化していることを踏まえ、時代の変化に応じた景観基準のあり方等を検討する。



無電柱化の整備を行った
上一之町花里線 R6.4



板塀を設置した駐車場 R5.10

市町村名	高山市	評価対象年度	H30～R6年
方針	Ⅲ 歴史と伝統を反映した人々の活動の継承	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

高山祭をはじめとする祭礼行事や伝承芸能、住民による町並み保存や文化財の保護などの活動は、地域住民のつながりや一体感の醸成とともに地域に息づいている。また、飛騨匠を発祥とする建築技術や木工品等の伝統工芸も継承されてきたが、居住者の減少や少子高齢化の進展により、地域の歴史的風致を支えてきた活動の継続が困難となっており、大きな課題である。

後継者育成支援や郷土の歴史文化の語り部の育成を行うとともに、担い手を確保するための新たな仕組みを構築し、各種団体や学校・地域との協働による歴史と伝統の継承を図る。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	屋台保存事業	屋台14台の修理、屋台蔵5棟の修理	あり	H30～R6
2	伝承芸能保存事業	20団体に継続的に補助金を交付	あり	H30～R6
3	郷土の歴史・文化の語り部育成事業	語り部養成講座を20回開催	あり	H30～R6
4	伝統行事担い手支援事業	関係団体との協議、アンケート調査	あり	H30～R6
5	文化遺産・地域資源活用調査事業	祭屋台保存・復刻調査、料亭洲さき建造物調査	あり	H30～R2

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

高山祭屋台・屋台蔵の修理を実施し、将来への屋台の保存・継承及び防災・防犯機能の回復を行った。また、各保存団体の活動に助成するとともに、令和2年度からは祭屋台の修理技術者の後継者育成事業に対する新たな助成制度を開始した。

新型コロナウイルス感染症の影響により伝統行事が例年どおり実施できなかった期間中は、関係団体へアンケート調査を行い、実態の把握に努めたほか、市民や関係団体と意見交換を行った。

また、市民やボランティアガイド、観光業者等を対象に、高山の歴史と文化について学ぶ語り部養成講座を開催し、語り部の育成と資質の向上を図った。

祭屋台の保存・復刻調査と、料亭洲さき建造物調査について、これまでの調査結果をまとめ、令和2年度に報告書を刊行した。洲さきは報告書の調査成果をもとに令和4年度、国の重要文化財（建造物）に指定された。

恵比須台彫刻修理の様子

語り部養成講座の様子

④ 自己評価

屋台・屋台蔵の修理や修理に携わる技術者への支援をはじめ、伝承芸能の保存団体の活動に対する支援を通して、伝統行事の継承に寄与し、地域の誇りの醸成に貢献した。

各文化遺産等の調査を進め、調査成果の発信を行ったことにより、歴史的・文化的価値の再認識につながった。

⑤ 今後の対応

祭礼行事や伝承芸能、伝統技術の後継者育成に対する支援や郷土の歴史文化の語り部養成のための講座を引き続き行うことで、将来への継承を図るとともに、伝統行事の担い手を確保するための効果的な対応策を検討する。

各文化遺産等の調査結果を説明会等により地域住民と共有を図るとともに、文化財指定を含めた保存の方策を検討する。

市町村名	高山市	評価対象年度	H30～R6年
方針	Ⅳ 観光客の増加や広域的な観光	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

外国人旅行者を含め観光客が増加する中、文化財等を巡る周遊ルートの整備等により、まちなかの回遊性が向上しているが、一部の地域に観光客が集中する状況が続いているため、市域全体での周遊性の向上が課題である。また、外国人旅行者に歴史文化の魅力をいかに伝えるかが課題となっている。道路の美装化や新たな歩行動線の確保、交通体系の見直しによる良好な歩行空間の創出により、市街地及び市域全体での回遊性・周遊性の向上を図る。また、外国人旅行者に対し、地域の歴史文化の成り立ちや魅力を伝えることができる通訳ガイドの育成確保を図る。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	町並み歩行空間創出事業	宮川朝市通り修景整備ほか市道修景、行神橋の新設	あり	H30～R6
2	スポット整備事業	4箇所を整備	あり	H30～R6
3	城山公園等整備事業	東山遊歩道、城山公園の案内板20箇所を整備	あり	H30～R6
4	日本遺産活用整備事業	説明看板27箇所整備、飛騨匠フォーラム2回開催	なし	H30～R6
5	まちの博物館外国語対応事業	多言語ボランティアの会13回開催 ボランティアガイド養成講座（英語版）1回開催	なし	H30～R6

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

旧城下町の市道において景観配慮型の側溝整備や舗装整備により、良好な歩行空間を創出した。また、宮川朝市通りがある宮川右岸と、本町通り商店街のある宮川左岸とを結ぶ歩行ルートとなる人道橋（行神橋）を整備した。さらに、東山遊歩道等がある散策スポットに、大雄寺スポットを整備し、歩行空間の魅力と利便性、周遊性の向上を図った。

「ボランティアガイド養成講座 英語版」を開講し、英語ガイドのスキルアップを行ったほか、外国人へのガイドを行う際に必要な高山の歴史文化についての知識や手法について習得する機会を設け、資質の向上に寄与した。日本遺産の活用のため、祭屋台等の説明看板を整備するとともに、高山城VRや日本遺産スタンプリー、屋台曳行動画などデジタルコンテンツを制作し、地域の魅力発信に努めた。また、飛騨匠フォーラムの開催を通じて、市民や観光客に対する歴史文化の普及啓発を図った。

観光客で賑わう高山祭の様子

R6.4.14

「ボランティアガイド養成講座 英語版」実施の様子 R5.10.3

④ 自己評価

新たな歩行動線の確保とともに、継続的に、道路の美装化や、散策スポットへの休憩所を設置することにより、まちなかの快適で景観に配慮された歩行空間を創出し、回遊性・周遊性の向上を図った。

日本遺産に関する最新技術を用いたデジタルコンテンツの整備や、多言語ガイドの人材育成により、地域の歴史文化の普及啓発を図ることができた。

⑤ 今後の対応

まちなかや散策スポットを歩いて快適に楽しめるよう、また、長時間の滞在が可能となるよう、引き続き必要な環境を整える。

様々な誘客活動において、日本遺産をはじめとした本市固有の歴史文化の魅力を国内外にPRするとともに、多くの外国人観光客が来訪されていることを踏まえ、地域の歴史文化の成り立ちや魅力を伝えることができる多言語ガイドの育成確保を図る。

市町村名	高山市	評価対象年度	H30～R6年
効果	i 観光客数の増加		

① 効果の概要
新型コロナウイルス感染症により激減した観光客数が回復。

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	高山市海外戦略	なし	R2～R6
2			
3			

多言語観光パンフレット・ホームページやフェイスブックをはじめするSNSの活用などによる情報発信の充実、トップセールス、外国人観光客向け公衆無線LANサービスの提供や案内表示の多言語化、通訳ガイドの育成・確保、昇龍道や北陸・飛騨・信州3つ星街道等の広域的な連携による周遊ルートの形成など、海外からの誘客促進や受け入れ態勢の充実を図った。

③ 効果発現の経緯と成果

観光入込客数は令和元年に470万人を超え、過去最高となったが、新型コロナウイルス感染症の影響による行動制限で、令和3年には190万人台にまで落ち込み、特に外国人観光客の数が激減した。令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行して以降は、外国人観光客の宿泊者数は大きく回復している。訪日観光客の滞在先の多くが都市部に偏っているといわれている中で、本市は多くの観光客の訪問先として選ばれている。これは、地域固有の歴史文化の情報発信、案内看板等の多言語化、ホームページや散策マップの多言語での情報発信、消費税免税制度活用の促進等に取り組んできたことなどの成果といえる。

令和6年になると、春祭が8年ぶりに2日間とも天気に恵まれ、雨などの影響を受けずに全ての行事を行うことができた。また、10月の秋祭は、最終日の10日、天候にも恵まれ、曳き揃えやからくり奉納といった祭行事が通常通り行われ、2日間で18万2千人の人出があった。観光客の数は、新型コロナウイルス感染症以前にはまだ戻っていないが、令和5年よりは増加しており、観光客の数は回復傾向にある。

年度	外国人観光客	宿泊者(日本人)	日帰り客	合計
H22	4,040	3,481	3,769	11,290
H23	3,945	4,025	4,341	12,311
H24	4,511	4,623	4,442	13,576
H25	4,733	2,302	1,948	9,083
H26	3,086	4,072		7,158

観光入込客数の推移

外国人観光客でにぎわう古い町並み R6.4

令和6年秋祭の様子 R6.10.10

④ 自己評価

新型コロナウイルス感染症による行動制限の中でも、これまで積み重ねてきた取り組みを進めたことにより、行動制限が緩和されるにつれ、観光客が右肩上がりに戻ってきている。令和6年4月の春祭の観光客がおよそ18万8千人となり、おおむね、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の水準に回復。秋祭りは令和5年より7万人多い18万2千人となり、回復傾向が堅調であることを示している。

⑤ 今後の対応

引き続き、本市固有の歴史文化の魅力を海外にPRするとともに、外国人旅行者に対し、地域の歴史文化の成り立ちや魅力を伝えることができる通訳ガイドの育成確保を図る。

外国人観光客の来訪による地域経済への波及効果を高めるため、外国人観光客の周辺地域への訪問を促す継続的な取り組みが必要。

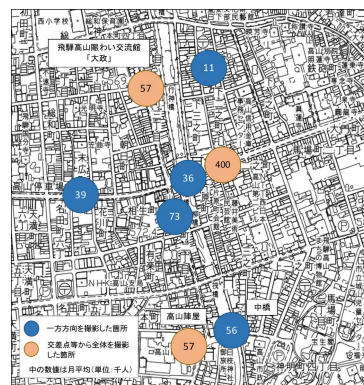
市町村名	高山市	評価対象年度	H30～R6年
効果	ii まちなかの回遊性の向上		
① 効果の概要 歴史的建造物の整備や歩行空間の創出等により、回遊性・周遊性の向上を図った。			
② 関連する取り組み・計画			
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	中心市街地活性化基本計画	なし	R6～
2			
3			
外国人旅行者を含め、観光客が増加する中、一部の地域に観光客が集中する状況が続いているため、市域全体での周遊性の向上が課題である。 道路の美装化や人道橋の整備等、新たな歩行動線の確保等による歩行空間の創出により、市街地全体での回遊性・周遊性の向上を図った。			
③ 効果発現の経緯と成果			
新型コロナウイルス感染症による行動制限の影響を受けて、観光客が激減する中、令和2年には歴史的建造物を整備・活用した若者等活動事務所「村半」と、宮川の右岸と左岸とを結ぶ新たな歩行ルートである人道橋「行神橋」が、令和4年には飛騨高山にぎわい交流館「大政」が、それぞれ供用開始した。この間は、それまで地元との調整等を行い事業を進めてきた成果が実を結んだ年でもある。村半、大政ともに、まずは 本来の目的通り、地元の中高生や住民により利用され、行神橋も地元住民の新たな動線となっている。 これらはまた、再び観光客が増えた現在、複数回来訪されている観光客にとっても、新たなスポットや動線となり、宮川朝市通りの整備や、道路の美装化等も加わり、歩く空間、回遊性の向上を図ることができた。このことは、まちの博物館をはじめとする施設の利用状況とAIカメラによる人流量の測定から、これまで、陣屋や中橋周辺から三町伝統的建造物群保存地区に偏りがちだった来訪者が、宮川下流、下町から本町の方まで足を伸ばしていることから見て取れる。			
④ 自己評価			
これまで、陣屋や中橋周辺から三町伝統的建造物群保存地区に偏りがちだった来訪者の行動範囲が、下二之町大新町伝統的建造物群保存地区や、宮川の西側の本町通りも含めた比較的広い範囲まで広がっていることから、来訪者の回遊性の向上が図られ、また、それに伴い滞在時間の増加をもたらしているといえる。			
⑤ 今後の対応			
歩行空間整備については、住民との協議等も進めながら整備を進める。快適、安全に、歩いて楽しめる複数のルートを用意することで、さらなる回遊性・周遊性の確保に努める。			



宮川朝市通り(整備後) R6



行神橋(夜間ライトアップ) R5



AIカメラによる人流計測結果

R5高山市調べ

市町村名	高山市	評価対象年度	H30～R6年
効果	iii 歴史的建造物等と連携した伝統行事の復活		
① 効果の概要 途絶えていた高山祭の屋台行事が復活。			
② 関連する取り組み・計画			
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1			
2			
3			
高山祭をはじめとした伝統行事において、担い手の確保が課題となっている中、高山祭の地域となる伝統的建造物群保存地区内の歴史的建造物を整備し、これを活用した伝統行事が復活した。 また、高山祭屋台の修理、防災施設である屋台蔵の整備、行事等の支援を継続して実施したことにより、地域が主体となって途絶えていた祭行事の一部が復活した。			
③ 効果発現の経緯と成果			
当番飾りは、高山祭の屋台組が祭当日に組内の中心的場所の建物の一画に、お供えや飾り付けをする伝統的な風習であるが、現在行っている組は少なくなっている。 鳩峯車組では、「村半」の整備に向けた活動の中で、屋台組の協力によって、平成30年の秋の高山祭の際に約70年ぶりに当番飾りが設置された。 また、令和3～6年度に修理を行った仙人台では、修理に合わせて約70年ぶりに笛と太鼓の生演奏の祭囃子が復活した。この他にも、龍神台では祭囃子の生演奏、からくり奉納の謡が復活するなど、地域の側からも伝統行事の復活、承継の動きが出ている。 このような中、三町伝統的建造物群保存地区内に位置する料亭「洲さき」が国の重要文化財に指定された際は、地元である恵比須台組による屋台の曳き廻しと、獅子組による獅子舞の披露が行われた。重要文化財への指定は、地元住民の活動の後押しともなり、活気を与えることともなった。			
 当番飾りの様子(村半) R6.10			
 洲さきの国指定祝賀行事R4.7			
④ 自己評価			
歴史的建造物や高山祭屋台の保存・活用事業を契機として、長い間休止していた屋台行事の一部が再開された。これらの中には、歴史的建造物の整備を契機にしたものや、屋台の修理とあわせて復活し、相乗効果が得られたものもある。 これらは、地域の歴史的風致の向上につながるとともに、担い手不足解消の端緒となることが期待される。			
 洲さき R5.6			
⑤ 今後の対応			
高山祭屋台の修理については今後も継続して実施し、屋台の保護を行うとともに、修理に合わせた屋台組等で行われる行事等の承継・復興に向けた機運の醸成を図る。 また、歴史的建造物、良好な町並み景観の維持向上を図るとともに、伝統行事を守り育てる取り組みを行う。			

市町村名	高山市	評価対象年度	H30～R6年
取り組み	A 歴史的建造物活用整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設

① 取り組み概要

宮川左岸にある空き家となった大正時代末期に建築された町家（旧大政染物店）について、令和2年度に設計、令和3年度に工事を実施した。

この施設は、住民や観光客の回遊性の向上や滞在時間の延長を図るため、令和2年7月に供用開始した行神橋の周辺に人の流れを「誘引」し、誘引した人を「滞留」させ、滞留した人を本町通りや周辺エリアへ「誘導」する機能を備えた施設として整備し、令和4年4月に飛騨高山にぎわい交流館「大政」として供用を開始した。地域の歴史や景観に配慮した建物改修等により、まちの魅力や価値を高め、住民の街なみ形成活動や観光・交流等の拠点となっている。

内部の椅子や机、照明等は、飛騨の家具を備え、実際に使用することで現代に続く飛騨匠の技と心に触れることができる。

令和5年度の利用者は約9万5千人であり、若者を含む住民や観光客の一時利用や会議等の利用、地域情報や観光情報の発信、前面の市道も活用した一時的なイベント等に利用されており、新たな拠点として活用されている。

(整備前)

(整備後) R4.4

飛騨高山にぎわい交流館「大政」

② 自己評価

若者活動拠点「村半」に引き続き、宮川の下流側左岸の本町通りに、新たな拠点を整備した。工事中は、新型コロナウイルス感染症による行動制限の最中であり、手探りの状況での整備となったが、供用開始後から、行神橋と共に、宮川朝市通りと本町商店街側をつなぐ空間として、市民や観光客が日常から非日常まで過ごし、交流する拠点として活用されるようになった。地域の歴史や景観に配慮した建物改修等により、まちの魅力や価値を高め、中心市街地の回遊性の向上、賑わいの創出を図った。また、町家建築を活かしつつ、現代の本町商店街にあっても違和感のないデザインとしたことで、古い町並みと商店街との間の、柔らかなトランジションエリアの役割を果たしている。

外部有識者名	工学院大学 後藤治 教授
外部評価実施日	令和6年10月28日

③ 有識者コメント

関連事業で設置された行神橋を渡る人が、頻繁に本建物の前を往来するため、「取り組み概要」「自己評価」に示された所期の目的を果たしている。本建物の正面は、本来は、宮川左岸側の宮川と平行する商店街に向かって開く形だが、主な出入口を側面に変えたことが、目的を果たす上で有効に機能している。行神橋や本建物の整備によって生まれた回遊性の向上は、商店街を歩く人も増やす形になっており、その結果、商店街では空き店舗がうまるなど、所期の目的以上の効果も上げている。本建物の前で休憩をとる人が多数みられるので、椅子や机の配置等の工夫で、より建物の内部に引き込む工夫があると、なお良くなるように感じた。

④ 今後の対応

飛騨高山にぎわい交流館「大政」は、市民の街なみ形成活動や観光・交流等の拠点として活用され、回遊性・周遊性の向上にも寄与した。今後は若者等活動拠点「村半」とともに地域の拠点として根付くよう活用を促進する。なお、現在、休日には外部空間にベンチやテーブルを置いており、休息などに使われているが、内部空間の飛騨の匠の技と心にも触れるよう誘導する。

市町村名	高山市	評価対象年度	H30～R6年					
取り組み	B 無電柱化等事業	種別	歴史的風致維持 向上施設					
① 取り組み概要 J R高山駅乗鞍口（東口）方面から、三町伝統的建造物群保存地区や飛騨高山まちの博物館へつながる市道上一之町花里線660mについて、社会資本整備総合交付金（街並み環境整備事業）を活用し、伝統的な町並み景観の再生を図るため、景観を阻害している電線等を地中化するとともに、車道・歩道・側溝等について景観に配慮した整備を行った。 事業開始当初の測量設計では、無電柱化に必要な地上機器の設置位置の確保が困難なことや、既設地下施設と新設する電線共同溝施設との離隔が確保できないことなどの課題があり、改めて設計を行った。 また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で地元説明会を開催することができない中で、戸別訪問し、設置位置を含めて事業への理解と協力を求め、工事を着工することができた。 工区を第一工区、第二工区に分け、電線共同溝本体工事、引込設備工事、入線抜柱工事を進めた後、道路美装化を行い、上一之町花里線の工事は令和6年度末をもって完了した。								
		 （整備前）  （整備後）R6.5						
市道上一之町花里線の無電柱化等整備								
② 自己評価 三町伝統的建造物群保存地区内を通る市道上一之町花里線の無電柱化事業については、当初より様々な課題がある中、新型コロナウイルス感染症の影響により地元説明会が開催できない等の困難な状況乗り越えて、当初の予定通り令和6年度末に工事を完了した。市の無電柱化等事業として、次の路線を選定する際は、景観や歴史的風致といった要素も踏まえて検討を行う。 なお、設置位置等に困難があった高さのある地上機器であるが、格子状の覆いを設置し、温かみのある色による夜間照明の演出も行ったところ、歴史的風致維持向上計画協議会において「囲われた空間という感じができて良い」「地元に溶け込んでいる」「屋台も支障なく通った」等の意見があり、好意的に受け止められているといえる。								
外部有識者名	工学院大学 後藤治 教授							
外部評価実施日	令和6年10月28日							
③ 有識者コメント 市内の古い町並側でにぎわいが形成されているのは、三町伝統的建造物群保存地区をはじめ、宮川と並行する南北の通りである。それに対して、本事業が実施されているのは、直交する東西の通りである。「取り組み概要」「自己評価」には記されていないが、本事業の結果、来訪者の東西への行き来が増えており、地域における回遊性の向上が生まれている。なお、通りの幅員が広いため、電柱の地下埋設によって車等の交通が容易になり、通行者の危険性が増すことが危惧されたが、格子で囲った地上機器の設置によって、歩行者の邪魔にはならないが車の速度を上げにくく、事故の危険性が回避できる形になっている点も評価できる。								
④ 今後の対応 無電柱化等事業により東西方向の通りが整備された結果、伝統的な町並み景観の再生が図られるとともに地域における回遊性の向上が生まれた。今後も無電柱化等事業や町並み歩行空間創出事業等によって良好な景観と安全で快適な歩行空間の確保に努める。								

市町村名	高山市	評価対象年度	H30～R6年
歴史的風致	1 城下町の地割にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物等の保存・活用 II 歴史的景観等の保全・活用 III 歴史と伝統を反映した人々の活動の継承		

① 歴史的風致の概要

旧城下町には、城下町を形成して以来、ほぼ変わらない地割とともに、伝統的な様式を残す町家が保存され、その一部は重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。町並みが現在まで良好な状態で保存されている背景には、そこに高山祭の氏子区域が重なっており、屋台を護持する屋台組が、自分たちの町を守るために独自のコミュニティを維持し続けてきたこと、さらに、上町・下町という二つの領域が核となり、お互いに意識しながら文化的伝統を継承してきたことがある。これにより、高山祭や秋葉信仰、飾り物の文化など地域固有の伝統文化が継承されており、歴史的な町並みと一体となって城下町の歴史的風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

下二之町大新町伝統的建造物群保存地区内の大規模な町家を活用し、令和2年度に供用開始した若者等活動事務所「村半」は、現在、若者等の居場所としてまちに定着している。続いて、空き家となっていた宮川左岸の大正時代の町家を、飛騨高山にぎわい交流館「大政」として市が整備し、令和4年度に供用を開始し、これら施設は順調に利用されている。

このほか、町全体の景観向上を図るため、景観重要建造物の外観を維持するために必要な修理や、市街地景観保存区域内の建造物における一定の基準を満たす建築行為に対して助成を行い、民間建築物の景観の向上を支援した。

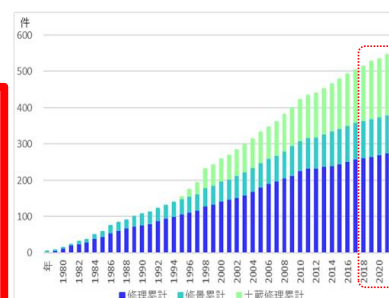
また、重要伝統的建造物群保存地区内の建造物を計画的に修理・修景することで、歴史的な町並みの保全・活用を図った。

これら地域の歴史や景観に配慮した建物改修により、歴史的建造物の保存・活用や町並み景観の向上が図られた。

さらに、防火対策として、防火壁の整備や、防火帯としての土蔵の整備を行った。防災対策としては、市指定有形文化財「旧高山町役場」（高山市政記念館）等において、修理する際に、市独自の耐震化マニュアルを活用し、耐震改修をあわせて行うことで、安全性の向上に努めた。



R2

伝統的建造物群保存地区
保存修理事業 R3

修理・修景、防災対策件数の推移

③ 自己評価

地域の歴史や景観に配慮した建物改修により、伝統的建造物や景観重要建造物、市街地景観保存区域建造物等の保存・活用や町並み景観の向上が図られた。一方、高齢化や居住者の減少による空き家の増加、伝統行事の担い手不足による伝統行事の継承については、引き続き課題である。

④ 今後の対応

景観計画や美しい景観と潤いのあるまちづくり条例、伝統的建造物群保存地区保存条例に基づく手続きを経て行われる建造物の修理・修景への助成により所有者の負担を軽減し、引き続き歴史的・文化的価値のある建造物の保全を図ると共に、市民の意識啓発を図り、文化的伝統を継承する取組みを進める。

市町村名	高山市	評価対象年度	H30～R6年
歴史的風致	2 高山祭の屋台行事にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅲ 歴史と伝統を反映した人々の活動の継承		

① 歴史的風致の概要

高山祭は、屋台が国重要有形民俗文化財に、屋台行事が国重要無形民俗文化財に指定され、平成28年にはユネスコ無形文化遺産に登録された。絢爛豪華な屋台とともに、山王祭の日枝神社、八幡祭の櫻山八幡宮、屋台蔵という祭礼に関連した建造物とその周辺の伝統的な町並みがあり、また、屋台組をはじめとする人々の活動や屋台修理の技術の継承、祭礼と融和する城山風致地区・北山風致地区の自然的環境がある。

高山祭の場である歴史的な町並みと自然的環境、そこで行われる屋台組を基盤とする人々の伝統的な活動が一体となって、市を代表する歴史的風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

先人たちが造り上げてきた高山祭の屋台は、山王祭12台、八幡祭11台の合計23台が現存しており、それぞれの屋台組が大切に守り続けている。これらの屋台を保存しながら技術を承継するため、高山祭屋台保存修理事業を実施した。

計画期間では、大國台（平成29年度～令和元年度）、宝珠台（平成30年度～令和3年度）、仙人台（令和3年度～令和6年度）、恵比須台（令和4年度～令和6年度）について解体を伴う大修理を行うとともに、屋台の防災施設である屋台蔵の修理を実施した。

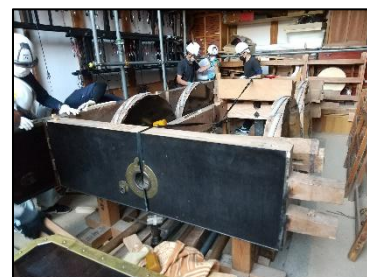
また、屋台を保存する高山屋台保存会、屋台組、屋台修理技術を保存・継承する高山・祭屋台保存技術協同組合の活動に対して継続的に支援を行った。

令和2年度からは、修理技術者の後継者育成を行っている事業所と研修者に対する新たな助成制度を設けて、屋台の保存や修理技術の継承に寄与した。

屋台組では、少子高齢化や居住者の減少により、屋台行事の運営に支障をきたしている組もある。計画期間では、屋台組や市民などとともに担い手支援策について検討を行ったが、地域の伝統を重んじる傾向もあり、具体的な取組みには至っていない。



修理を終えた宝珠台 R3.9

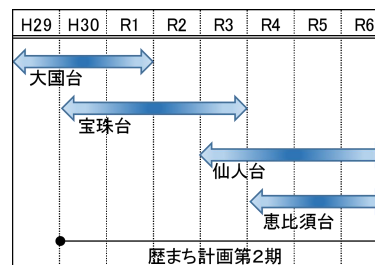


恵比須台修理の様子 R4.7

③ 自己評価

祭屋台の保存修理を行うことにより、現存する屋台の保存と、技術の承継に取組んだ。

あわせて、屋台組をはじめとする人々の活動へも支援を行うことで、歴史的風致の維持に努めた。



屋台修理計画期間

④ 今後の対応

ユネスコ無形文化遺産や日本遺産の制度を活用しながら、国内外に地域の魅力を発信していくとともに、市民の誇りを高め、祭礼行事の担い手や屋台の修理技術者の確保並びに後継者育成に取り組む。

屋台組の担い手支援については、今後も関係者との意見交換を継続し、より効果的な対応策を検討する。

市町村名	高山市	評価対象年度	H30～R6年
歴史的風致	3 東山寺院群にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅳ 観光客の増加や広域的な観光		

① 歴史的風致の概要

金森統治時代に形成された寺院群は、様々な時代の流れの中でも寺院群としての構造を保ち続けており、現在は貴重な文化財となっている。面的に広がる寺院群の背後には、東山風致地区、北山風致地区の緑が広がり、歴史的建造物や史跡と豊かな自然環境、人々の営みから生み出される鐘の音や線香の香りが、この地の独特の精神的環境を醸し出し、それらが一体となり、固有の伝統と文化を形成している。

寺院群の歴史的建造物を中心に形成される信仰空間と、人々の信仰心によって脈々と受け継がれる伝統的な年中行事が深く一体となって、東山寺院群の歴史的風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

東山寺院群には、南北に連なる寺院や神社、高山ゆかりの人物の墓などを巡る「東山遊歩道」が整備されており、観光客が増加するにつれ、特に欧米からの観光客に人気となっていたが、新型コロナウイルス感染症による行動制限により観光客は途切れた。この東山遊歩道や、城山風致地区内にある城山公園への来訪者をさらに増やすことでまちの回遊性を高めるため、案内板やスポット（休憩スペースや多目的トイレのある憩いの場）を整備し、歩行空間の魅力と利便性、回遊性の向上を図った。

案内板の整備においては、景観に配慮したデザインとしたほか、外国人に対応するため多言語表示（5か国語を基本）とした。行動制限が解除された後は、東山遊歩道、城山公園ともに外国人観光客が再び増加し、ベンチ等で寛ぐ姿がみられるようになった。

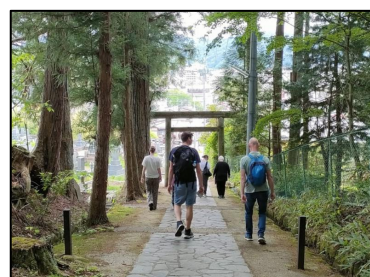
寺院や神社の建造物の多くが日本遺産構成文化財となっており、新しい説明看板を整備するとともに、スマートフォン上で建造物の360°のパノラマ画像を閲覧できるデジタルコンテンツを制作した。令和3年度からWEBブラウザ上で参加できる日本遺産スタンプラリーを実施しており、普及啓発を図った。



R1



大雄寺スポットの状況 R3.10

東山寺院群を散策する
外国人観光客の様子 R6.5

③ 自己評価

遊歩道や城山公園等に、景観に配慮した休憩スペースやトイレ、案内板の整備を行い、東山寺院群の歴史的風致の向上を図った。また、日本遺産を活用した説明看板の整備やデジタルコンテンツの提供により、市民や観光客への歴史文化の魅力発信に努めた。

④ 今後の対応

東山寺院群は、城下町高山の歴史的風致を形成する重要な要素であり、継続的な取り組みにより、知名度は上がった。歴史的建造物や史跡と豊かな自然環境、人々の営みの一体性を体感できるよう、回遊性と魅力の向上に引き続き取組む。また、当該地域は令和2年度より大学に委託して町並み保存対策調査を行っており、文化財的な価値を把握したうえで、伝統的建造物群保存地区の拡大に向けた取組を進める。

市町村名	高山市	評価対象年度	H30～R6年
歴史的風致	4 飛騨匠の技と心にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅲ 歴史と伝統を反映した人々の活動の継承 Ⅳ 観光客の増加や広域的な観光		

① 歴史的風致の概要

豊かな森林資源に恵まれた飛騨の地で、良材を活用した木工技術が発達し、奈良時代には「飛騨工」制度が生まれ、歴史の中で一位一刀彫や飛騨春慶などの伝統工芸が誕生した。その高度な技が結集した祭屋台は、今も職人たちの技により修理されながら維持されている。市内には、中世の社寺建築や近世・近代の大工・門の建築物、名工による一位一刀彫、飛騨春慶など、関連する遺産が数多く残されており、様々な場所で飛騨匠の技と心に触れることができる。

飛騨匠の技と心は高山の文化の基礎として、ものづくりの職人たちのみならず、高山市民すべての誇りであり、高山を代表する歴史的風致である。

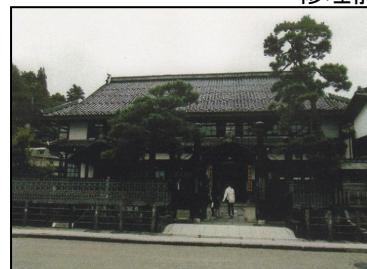
② 維持向上の経緯と成果

平成30年度と令和元年度に開催した「飛騨匠フォーラム」において、飛騨匠に関連した講演と実演イベントを実施し、職人による鉋削りや樽へぎの実演には外国人観光客や子供も多く参加した。また、日本遺産を広く発信するために最新の技術を用いたデジタルコンテンツを制作し、高山城VRや日本遺産スタンプリーは、新鮮さも相まって子供や若者などの層にも高山の歴史文化を知ってもらう契機となった。

令和3年度からは日本遺産フォトラリー、令和4年度からは日本遺産サイクルラリーを実施し、日本遺産構成文化財をはじめとした飛騨匠にゆかりのある文化財、史跡への周遊につながった。この他に、子供向けパンフレットを市内の小学校に配布し、郷土学習の一環としての活用を行っている。

市指定文化財において、修理や防災対策を行うことにより、文化財の適切な保存を図るとともに、工事中には現場見学会を行うことで、貴重な建築技術である現代に続く飛騨匠の技と心に触れる機会を設けた。旧高山町役場（高山市政記念館）は、耐震改修に係る現場見学会のほか、改修後も、ガラス越しに床下や天井裏などの構造をみられる見学スポットも設けており、広く観光客等に公開されている。この工事は、景観町並保存連合会の子供伝承部会で行った「上町発見！ご朱印めぐり」でも、次代を担う児童に特徴などを説明する機会を設けた。

修理前



R3.7

修理後



高山市政記念館

R5.3

③ 自己評価

職人たちにより承継されてきた飛騨匠の技に触れる機会として、修理現場の見学会や、見せる展示、さらにデジタル技術を活用した事業を通じ、リアル・ヴァーチャル両面から、市民や観光客に対する飛騨匠の伝統技術について普及啓発を図ることができた。一方で、技術者の高齢化等により、これら技術を未来へつなぐ後継者不足が課題となっている。



ご朱印めぐりの様子

R5.10

④ 今後の対応

日本遺産のストーリーを語るうえで欠かせない有形や無形の様々な文化財群を、総合的に整備・活用し、国内外に地域の魅力を発信するとともに、地域の宝に対する市民の誇りを高め、次代を担う子供たちへの啓発活動等を行うことを通じ、伝統工芸や伝統建築の技術者確保並びに後継者育成に取り組む。

市町村名	高山市	評価対象年度	H30～R6年
歴史的風致	5 歴史街道と農山村集落にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	II 歴史的景観等の保全・活用 III 歴史と伝統を反映した人々の活動の継承 IV 観光客の増加や広域的な観光		

① 歴史的風致の概要

急峻な地形の奥に広がる盆地に発達した高山城下町の文化は、街道を通じて各方面より運ばれてきた文化が融合し醸成された。この城下町文化は街道を通じて周辺の農山村集落に浸透・伝播し、それぞれの農山村集落では独自の文化が花開いた。

農山村集落では、城下町の町家の影響が見られる建物や伝統的な景観が大切に維持されているとともに、各々の集落で祭礼行事などの人々の営みが継承されている。また、城下町を中心に発展した食文化の中には全市的に広まったものもあり、それらが一体となって歴史街道沿いの農山村集落の歴史的風致、さらに広義には全市的な歴史的風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

新型コロナウイルス感染症の影響により伝統行事の多くが中止や縮小を余儀なくされた。一度中止・縮小された祭礼行事は復活が難しいところも出てきている。このような中で、地域の神社などで奉納される伝承芸能の保存団体に対しての継続的な活動助成、文化財の計画的な修理や防災対策を行った。

また、高山祭の屋台は、国指定重要有形民俗文化財の23台（山王祭、八幡祭）、県指定重要有形民俗文化財の2台（飛騨総社、東山白山神社）が現存しているが、かつては更に多くの屋台が存在していたことが知られている。旧町村地域にも現在は使われなくなった屋台が蔵に保管されているほか、詳細な調査が行われていない地域資源も存在している。これらの文化遺産等について、現存する資料の把握や現地調査、聞き取り等により、その歴史的経緯や現状について調査を行い、調査成果を公開する等、普及に努めた。さらに、各伝統行事の記録映像を制作し、後継者育成やPRに広く活用できるように整備を行った。

祭礼行事については、市の公式YouTubeチャンネルにダイジェスト版をアップロードし、価値や魅力を内外へ発信した。

「文化財めぐりウォークラリー」には、「越中街道コース」を追加した。全8コースの中で、街道に関係するコースは3コースあり、気軽に文化財への理解を深めつつ健康づくりにも活用してもらう取組みを行っている。



修理を終えた一色白山神社踊殿
（旧郡上・白川街道）



伝統行事の記録映像の公開

③ 自己評価

新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中、伝統行事の記録や公開も含めた継承に努め、文化財に対する理解を深めた。

インターネット等も活用しながら、地域内で守り育てるだけでなく、地域外の方にも新たに歴史的風致に興味関心を寄せていただくための取組みを開始し、次世代に活動を継承していくとともに、地域の誇りの醸成に貢献することができた。

④ 今後の対応

伝統行事の担い手不足については、現段階では即効性のある解決方法はない。調査、記録、公開により継承を図るとともに、各保存団体との協議を続けながら、活動に対する支援や、有効性のある対応策を引き続き検討する。

歴史街道や農山村集落の歴史的風致維持については、景観形成基準のあり方等も含めて、検討を進める。

市町村名	高山市	評価対象年度	H30～R6年
① 庁内組織の体制・変化 計画の推進にあたっては、事務局である都市計画課と文化財課が連携し、随時、担当者同士の打合せを行い、相談・調整を図った。 また、都市計画課と文化財課とは、景観町並保存連合会の事務局としても協力しており、連合会の専門部会（町並保存部会、広報部会、子供伝承部会）とも連携することで、町並み保存活動により一体感を増すことができた。なお、令和5年度からは、子供伝承部会の行事も再開したため、両課協力し、子供を対象としたイベント「ご朱印めぐり」を行った。 各個別事業の実施等にあたっては、建築住宅課、商工労働部等とも調整を行った。 市全体としては、令和3年度に、観光課・海外戦略課・ブランド戦略課を飛騨高山プロモーション戦略部として組織の再編を行い、令和5年度からは、海外戦略課を廃止し、国内外の誘客や販売促進などを一体的に推進するため、海外誘客と受け入れ業務を観光課に一本化し、市を挙げて主要産業である観光振興に取り組んでいる。 高山市歴史的風致維持向上計画協議会については、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度から令和4年度までは、書面会議として開催したが、令和5年に行動制限が緩和されてからは、対面により開催している。感染症等の影響によっては、リモートによるオンライン開催も含め、臨機応変な対応がとれるよう、会議環境を整備した。  歴史まちづくりの体制  歴史的風致維持向上計画協議会の様子			
② 庁内の意見・評価 最終評価の作成にあたり、各課から下記の意見等があった。 ・本計画によって歴史まちづくりに関係する事業を関係課で連携して取り組むことができた。 ・無電柱化整備が景観の向上に寄与しており、地域からも好意的な意見を頂いた。 ・歴史的町並保存事業など、以前からの継続した取り組みによって町並み景観の保存が図られている。これらの事業は継続することで効果を発揮するものだと思うので、第三期計画でも引き続き取り組むべきだと思う。			

市町村名	高山市	評価対象年度	H30～R6年																						
① 住民意見 市では毎年、18歳以上の市民を対象に、まちづくりに関するアンケート調査を行っている。高山市への「誇り」や「愛着」をどんなところに感じるかについて尋ねたところ、「歴史・文化」が3位、「町並み・景観」が4位となった（令和2年の調査では、3位が「町並み・景観」、4位が「歴史・文化」）。 1位の「自然環境」、2位の「安全・安心な暮らし」に続いての3位、4位が歴史まちづくり関係であることは、このことに関する市民の興味関心の高さを表していると言える。 また、「未来の高山市のため、皆さんや地域でできると思われる取組みがありましたら、ご記入ください」との設問に対しては、「必要な伝統は守らなければならないが、改革できることは改革する」「伝統芸能の継承」「伝統文化を勉強すること」といった意見が出された。 さらに、その他のご意見やご提案の中には、「高山の自然豊かな場所の保存、古い町並の景観の維持は今後も継続すべき点だと思う」という意見もあった。																									
<table border="1"> <caption>「誇り」や「愛着」を感じる場所</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自然環境</td> <td>75.0</td> </tr> <tr> <td>安全・安心な暮らし</td> <td>40.0</td> </tr> <tr> <td>歴史・文化</td> <td>38.0</td> </tr> <tr> <td>町並み・景観</td> <td>35.0</td> </tr> <tr> <td>人情</td> <td>28.0</td> </tr> <tr> <td>食べ物</td> <td>22.0</td> </tr> <tr> <td>教育環境</td> <td>5.0</td> </tr> <tr> <td>住民活動</td> <td>3.0</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>1.0</td> </tr> </tbody> </table> 令和5年度 高山市まちづくりアンケート調査報告書 調査期間：令和5年6月29日から8月8日 発送数：3,000人、回収数1,156人 (回収率38.5%)				項目	割合 (%)	自然環境	75.0	安全・安心な暮らし	40.0	歴史・文化	38.0	町並み・景観	35.0	人情	28.0	食べ物	22.0	教育環境	5.0	住民活動	3.0	その他	2.0	無回答	1.0
項目	割合 (%)																								
自然環境	75.0																								
安全・安心な暮らし	40.0																								
歴史・文化	38.0																								
町並み・景観	35.0																								
人情	28.0																								
食べ物	22.0																								
教育環境	5.0																								
住民活動	3.0																								
その他	2.0																								
無回答	1.0																								
② 協議会におけるコメント ・次期計画に盛り込む予定の伝統的大工技術等継承事業、地域の伝統的な技法により行う建築物の新築又は修景への助成について、技術者は道具の不足にも苦労している。高山の鍛冶職も活用してもらえると良い。 ・伝統的大工技術等継承事業について、このような事業を継続することで今後の伝統的建造物群保存地区等の建造物の修理の担い手が増えていくと良いと思う。 ・上一之町花里線の無電柱化の街灯を防犯などの面から少し明るくしてほしいと思う。 ・街灯は、むやみに明るくしないでほしいとも思う。防犯カメラについても現在は性能が上がっているため、既存のカメラを新しくすることで防犯の効果があると思う。 ・耕作放棄地等の増加による農山村景観の悪化について、耕作放棄地となるだけでなく、ソーラーパネルの立地になっている状況がある。 ・商業活動に伴う歴史的資源の保全と活用のバランスについて、総合的には規制ということだけではなく、景観のためにどうしたらいいかを考えていかなければならない。その中でぜひ地域と一緒に考えてもらえば良い。規制を使わずに良くしていけたらと思う。そのように事業者と協力を取りつけてもらえると良い。 ・文化財保存活用地域計画が歴史的風致維持向上計画とリンクしており、非常に頼もしい。																									

市町村名	高山市	評価対象年度	H30～R6年
------	-----	--------	---------

① 全体の課題

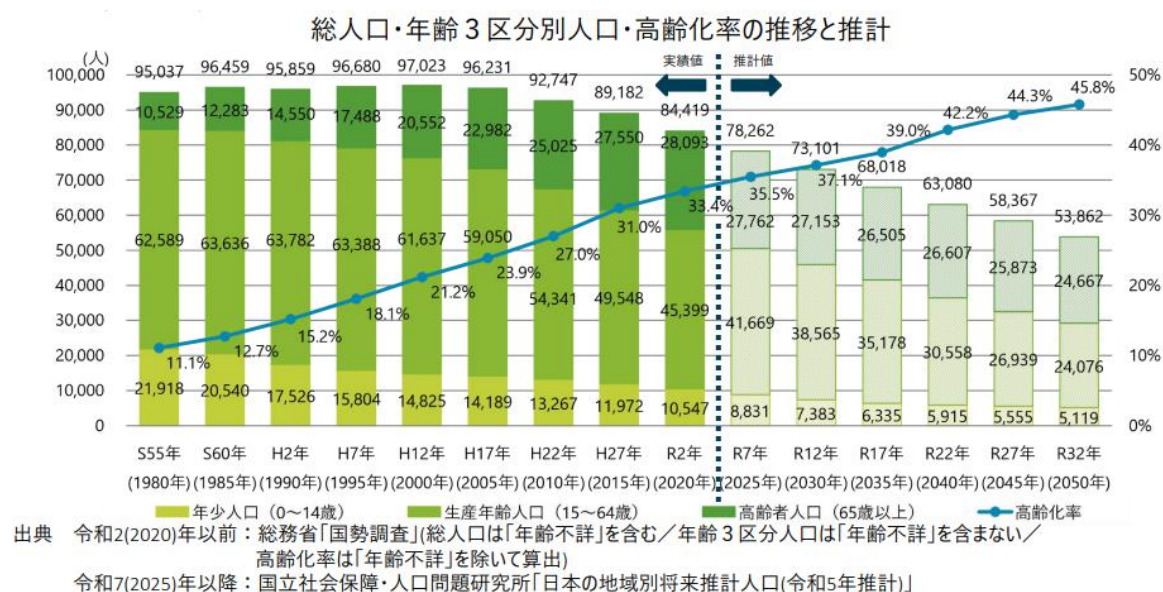
これまで、第一期計画（平成20年度～平成29年度）では、まちの魅力の向上、外国人旅行者を含む観光客の増加、高山祭の継承や町並み保存に関する住民活動の活発化などの成果が表れた一方、居住者の減少や少子高齢化に伴う担い手不足により、歴史的建造物の維持や伝統文化等の継承に関する事業については更に重点的に取り組む必要があることや、一部の地域への観光客の集中、外国人観光客への対応力の強化といった新たな課題への対策が求められた。

そこで、第二期計画（平成30年度～令和6年度）を策定し、引き続き事業を推進することとし、このたび最終評価を迎えた。第二期計画期間のおよそ半分は、新型コロナウイルス感染症の影響により市民の活動が大幅に制限された期間となった。

この間は、高山祭を含むほぼ全ての行事が例年通り開催できず、それまで順調に増加していた観光客も大幅に減るなど、歴史まちづくりに与えた影響も大きく、苦しい期間となった。

そのような中でも、歴史的建造物活用事業として、若者等活動事務所「村半」、飛騨高山にぎわい交流館「大政」を開所したこと、宮川朝市通りの修景や、古い町並みと中心商店街をつなぐ人道橋「行神橋」を整備したこと、景観を向上させる上の一町花里線の無電柱化等事業などを着実に進めたこと、民間建築物の修景等への助成を継続したこと等により、回遊性・周遊性の向上を図るとともに、町並み景観の向上にも寄与した。また、祭屋台の改修等と並行して、休止していた高山祭の屋台行事の一部も再開し、次につながる活動がみられたことも成果と言える。

しかし、本市においては、日本全体よりも早いペースで人口減少や少子高齢化が進むことが予想されており、伝統文化や伝統行事の承継と担い手不足はより一層深刻な課題である。屋台の修理技術や伝統建築の技術者の確保と後継者育成といった面への継続的な取り組みは今後必要である。



② 今後の対応

計画策定以前から、市民の活動や行政の取り組みにより、本市の歴史まちづくりは進められてきた。これらの取り組みは、「歴史的風致の維持向上」という観点から、計画によって一体のものとしてまとめ、平成20年度から16年かけて積み上げてきた実績は本市の歴史的風致の礎となり、今後の方向を示すものとなっている。

本計画の下、継続的に不断の取り組みにより、市民の郷土愛を高め、今後50年、100年先にも本市固有の歴史的な町並みや伝統文化を継承するとともに、それらから波及する交流人口の増加、定住の促進等による地域活性化によって、一層の成果が得られるものである。

以上のことから、令和7(2025)年度から令和16(2034)年度までの10カ年を計画期間とする「高山市歴史的風致維持向上計画」第三期計画策定し、引き続き事業を推進する。